

# 目 次

|   | 頁  |
|---|----|
| はじめに                                    |    |
| 長崎商工会議所青年部 地域政策委員会 委員長 水野 和美 ……………      | 1  |
| <b>第 一 章</b>                            |    |
| 1. プロジェクト名 「ずっともっと住みたか 長崎」 ……………        | 2  |
| 2. 提言のねらい ……………                         | 2  |
| 3. 人口の推移と状況 ……………                       | 2  |
| 4. アンケート結果と他都市との比較 ……………                | 5  |
| 5. 歯止めには何が必要か ……………                     | 11 |
| 6. 提言1 「長崎版E S Dを確立して、長崎が好きな子供を育てよう」 …… | 14 |
| 7. 提言2 「企業のE S D参加と企業と学生を繋ぐイベントの実施」 ……  | 16 |
| 8. 提言3 「毎月第4水曜日を長崎よかまちづくりの日に」 ……………     | 17 |
| 9. ま と め ……………                          | 17 |
| <b>第 二 章</b>                            |    |
| 1. プロジェクト名 「夜景世界一のまち 長崎を目指して」 ……………     | 18 |
| 2. 提言のねらい ……………                         | 18 |
| 3. 長崎Y E Gの夜景への取り組み ……………               | 20 |
| 4. 提言1 稲佐山展望台へのアクセス向上 ……………             | 22 |
| 5. 提言2 光のコンテンツ ……………                    | 27 |
| 6. ま と め ……………                          | 37 |
| おわりに                                    |    |
| 長崎商工会議所青年部 地域政策担当副会長 末石 順 ……………         | 38 |

## 平成27年度地域政策委員会 名簿

|         |      |    |     |
|---------|------|----|-----|
| 地域政策担当  | 副会長  | 末石 | 順   |
| 地域政策委員会 | 委員長  | 水野 | 和美  |
|         | 副委員長 | 大串 | 龍大  |
|         | 副委員長 | 野口 | 富士男 |
|         | 副委員長 | 麓  | 浩二  |
|         | 副委員長 | 松石 | 崇   |
|         | 委員   | 浅田 | 信五  |
|         | 委員   | 井上 | 慶祐  |
|         | 委員   | 檜山 | 周一  |
|         | 委員   | 片岡 | 盟博  |
|         | 委員   | 坂上 | 隆弘  |
|         | 委員   | 柴原 | 啓一郎 |
|         | 委員   | 武田 | 誠   |
|         | 委員   | 長井 | 大輔  |
|         | 委員   | 中嶋 | 勇一郎 |
|         | 委員   | 中村 | 繁   |
|         | 委員   | 中村 | 浩嗣  |
|         | 委員   | 西  | 久晴  |
|         | 委員   | 野田 | 賢司  |
|         | 委員   | 橋口 | 雄樹  |
|         | 委員   | 橋本 | 剛   |
|         | 委員   | 平野 | 幸雄  |
|         | 委員   | 福島 | 卓   |
|         | 委員   | 古里 | 一紀  |
|         | 委員   | 牧  | 正康  |
|         | 委員   | 松尾 | 浩二  |
|         | 委員   | 村木 | 千穂  |
|         | 委員   | 吉田 | 宏和  |

## はじめに

近年の我が国の経済は、リーマンショックの落ち込みや、消費税率引き上げ後の混乱を克服し、緩やかな回復傾向を続けていますが、新興国の過剰設備や在庫の調整圧力により製造部門を中心に厳しい状態が続いています。また、資源価格の下落により新興国の景気をより悪化させているとも言われており視界不良な状態だと言えます。

一方、他の先進国は家計支出・民間需要を中心に緩やかに伸びが高まっていますが、先の新興国との展開ペースにより注目せざるをえない状況です。

長崎県の経済状況は、観光関連事業が勢いを増し、好調に推移しています。昨年7月に「明治日本の産業革命遺産」が世界遺産に登録され、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」も世界遺産登録に向け進んでいます。10月に開かれた「夜景サミット2015in神戸」では日本新三大夜景に一位で選出され、今後の夜景観光にも期待出来る状況になりました。また、国際クルーズ客船の寄港数の倍増や県外からの滞在者数も増加しており関連事業はとても良い状況だと言えます。

一方、製造業では緩やかな回復傾向にはあるものの、全国的にも問題になっている人口減少問題からの人手不足・人材不足感が強まり先行き不透明であるようです。

平成27年度地域政策委員会は、地域活性活動として「クスノキ」（歌手：福山雅治）を市民が歌いつなぐりレーソングの映像を作成し発表しました。また、夏に行われた長崎☆夏の「やっぱり、じげもん！よかもん！大祭」にも携わらせて頂き、多くの市民はもとより、市外県外、国外からのお客様と話す機会を得る事が出来ました。

この活動のなかで、地方創生元年といわれるこの年に、他の地方都市より魅力的であるために「現状の長崎市の良さは何か」「長崎市に足りないものは何か」そして、「今後の為に、何が必要なのか」を考えて委員会を重ねてきました。

ここ数年、順調に推移している観光事業。その中でも火付け役の一つである「長崎の夜景」のさらなる取り組みが必要ではないか。

そして、長崎で生きる者として、歴史・文化を後世に継承するにも「少子化問題」が大きな壁になっている・・・ならば子どもの頃から長崎の魅力を学び、感性を磨くことで長崎の愛着を深め、住むことに誇りを持てる教育環境を作ることが必要ではないか。長崎市民が生き生きとしていれば、外からも魅力的な都市に映るだろうとの考えに至りました。

そこで、「ずっともっと住みたか 長崎」「夜景世界一のまち 長崎を目指して」の二つのテーマを設定し取り組む事としました。

長崎市におかれては、種々施策を講じられることとは思いますが、長崎商工会議所青年部として長崎市政に少しでも貢献できないかと考え、具体的提言をいたします。

長崎商工会議所青年部 地域政策委員会  
委員長 水野和美

# 長崎商工会議所青年部 政策提言書 第1章

## 1. プロジェクト名 「ずっともっと住みたか 長崎」

## 2. 提言のねらい

2014年11月、地方創生法関連2法が本会議で可決、成立しました。

これは地方の人口減少抑制や地域の活性化をめざす基本理念を含めた「まち・ひと・しごと創生法」と、地域支援策の申請を内閣府に一元化する改正地域再生法です。

長崎でも各所で計画を策定されていますが、日本各地でも少子高齢化や自治体の形骸化等の問題に積極的に向き合い対策を行う計画が策定されているようです。

そこで、我々は「ずっともっと住みたい」と思う長崎作りを目標に提言をまとめました。

## 3. 人口の推移と状況

まず、長崎県の人口の推移です。

長崎県の統計調査によると、1950年の人口は164万人。その後、1960年の高度成長期にピークを迎え176万人でした。

そこから減少していき、2010年には142万人となり、2017年には約137万人まで減少し、50年間で34万人減少しています。

1989年から2004年までの15年間で2万9千人の減少、2005年、2006年の市町村合併で45万人まで回復したものの2012年までの6年間で1万2千人減少しています。

長崎県の出生数と死亡数の推移です。

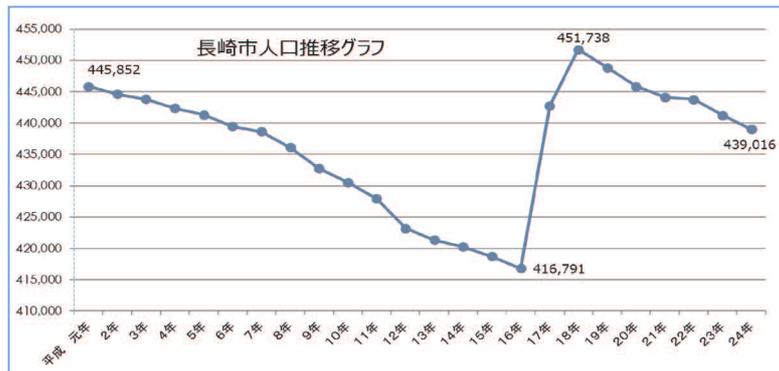
総人口が減少傾向であるのに対し、死亡数は増加傾向で増えています。しかし出生率は激減し2002年には死亡数が出生数を逆転し、近年は5千人程度死亡数が多い状況にあります。

この出生数の原因は20歳から39歳の女性の動態でわかるように、1985年の人口を100とした場合、全国では1割減に対し長崎県は3割減少しています。

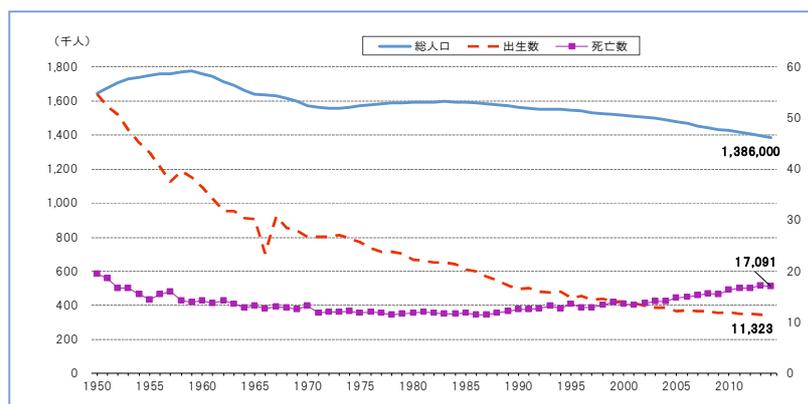
これは、今後の出生数の増加は期待出来ず、減少し続ける事を意味しているとも考えられます。



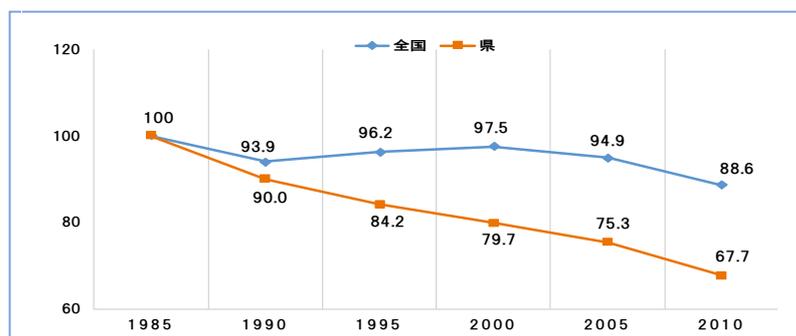
総人口の推移



## ① 出生数、死亡数の推移



## ② 20～39歳女性の人口推移



次に長崎市の現状です。

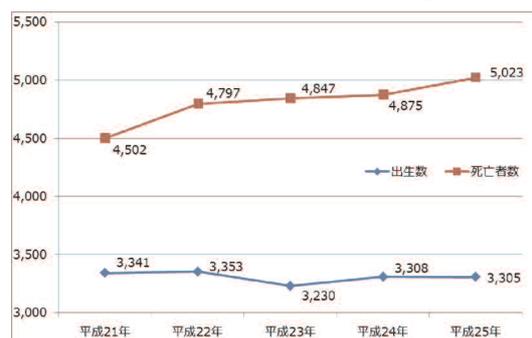
長崎市も長崎県と同様に出生数を死亡数が上回っている状況が続いています。

平成25年は死亡数が出生数を1,700人も上回っています。

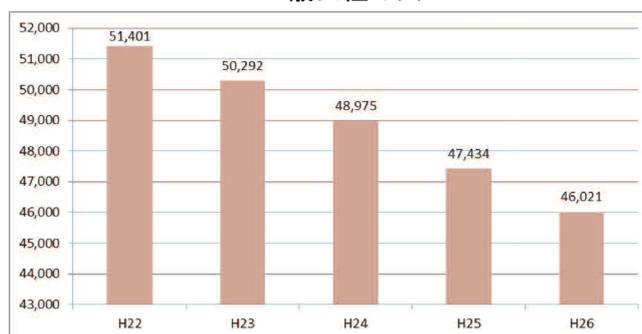
原因も同様に長崎市の20歳から39歳の女性が毎年、1,000人程人口が減少していることと考えられます。

このままでは長崎市も出生数の増加が見込めず、人口は減少の一途です。

### 長崎市の出生数、死亡数の推移



### 20～39歳女性の人口

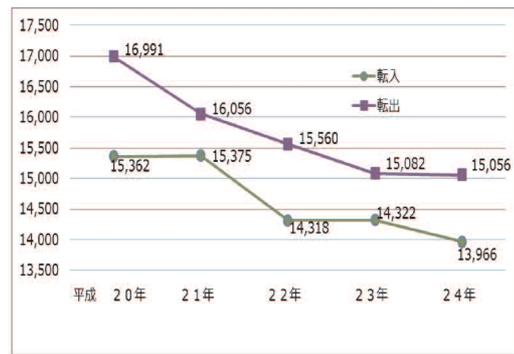


また、人口の流出も大きな問題です、近年、長崎に転入してくる人よりも転出していく人の方が多く、毎年、約1,000人程度転出者の数が多い状況が続いています。

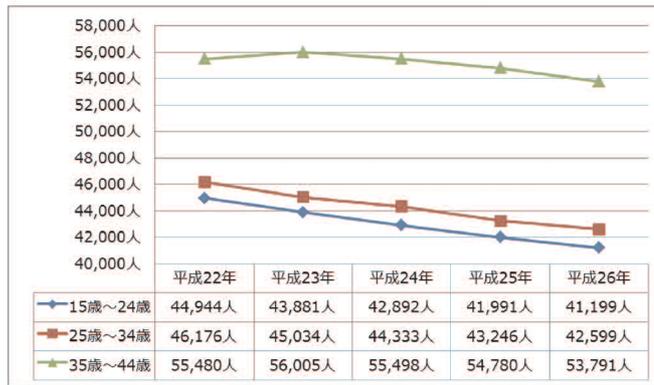
年齢層別にみても平成22年から平成26年度の5年間で35歳から44歳の減少数が1,700人なのに比べ、25歳から34歳までが3,500人、15歳から24歳までが3,700人と若年層の人口減が目立って多くなっています。

これは次に説明する、学生の転出と非常に関係しているものと思われます。

転入・転出人口比較推移



年齢層別人口推移



| 年齢層別転出者数計（22年～26年） |        |
|--------------------|--------|
| 15歳～24歳            | 3,745人 |
| 25歳～34歳            | 3,577人 |
| 35歳～44歳            | 1,689人 |

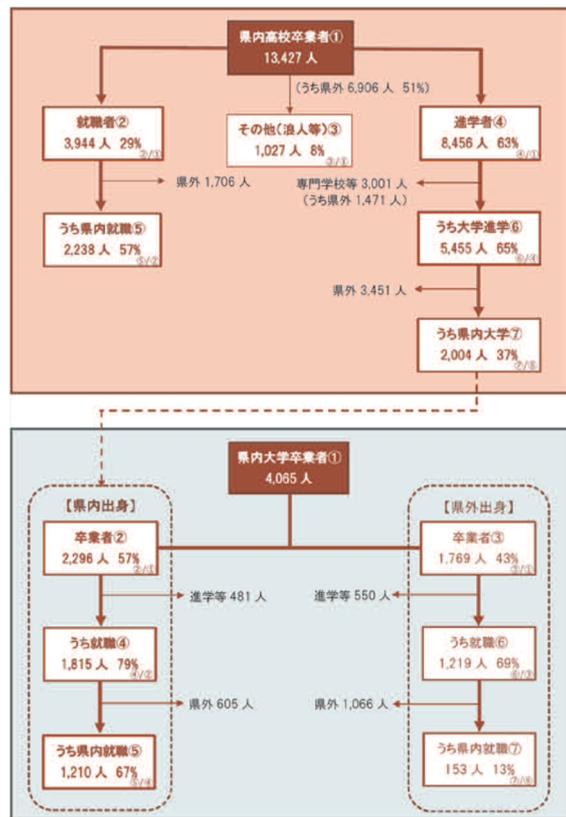
次に現状の長崎の若者の動向です。

長崎県内の高校卒業者の進路状況を見てみますと、高校卒業者13,427名のうち県外の就職者が1,706名。県外進学者が4,922名であり約5割が県外に転出しています。

県内大学卒業者の進路状況みてみますと、県内大学卒業者4,065名のうち県内出身者で県外の就職者が605名。県外出身者の県外就職者が1,066名であり進学を除くと県内の出身者の約3割。県外出身者の約9割が県外に転出している事が分かります。

このように、出生率が低下したうえに県内の新卒者や県外からの学生の多くが県外に転出してしまう状況では人口減少に歯止めがかからない。

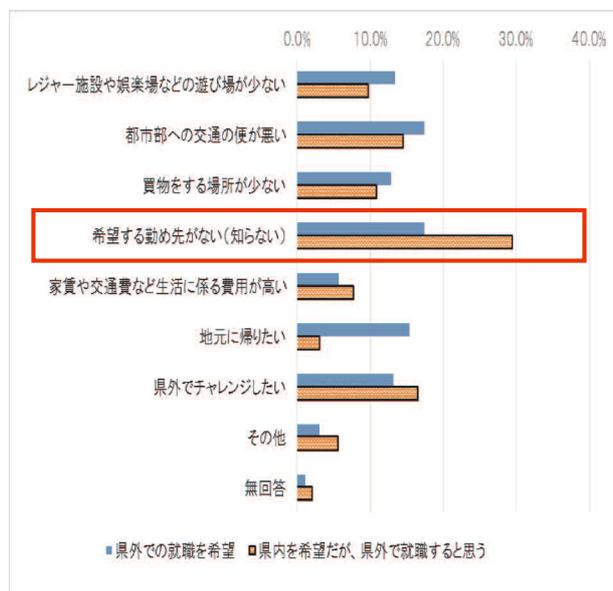
若者が長崎に残る事が人口減の問題解決の一つであると考えます。



県内高校・大学卒業者の進路状況（平成27年3月卒）

県外への就職希望者の理由には「希望する勤め先がない（知らない）」「都市部への交通の便が悪い」「レジャー施設や娯楽などの遊び場が少ない」といった理由が上位を占めています。

この結果に関しては、長崎YEGとしても、もっと知って頂けるように努力する必要があります。



#### 4. アンケート結果と他都市との比較

このように転出は多いものの、長崎県の暮らしやすさ指数では「学びやすいまち」1位、「子育てしやすいまち」6位とあり、全ての面でレベルが高く、総合では全国1位と発表されました。

以下の表は区分別ごとに分けた結果です。

| 区分名                   | 指標数         | 順位        |
|-----------------------|-------------|-----------|
| 第1区分 快適で便利に生活できるまち    | 12指標        | 9位        |
| 第2区分 きれいな環境を保つまち      | 9指標         | 11位       |
| 第3区分 働きやすいまち          | 11指標        | 22位       |
| 第4区分 <b>学びやすいまち</b>   | <b>10指標</b> | <b>1位</b> |
| 第5区分 <b>子育てしやすいまち</b> | <b>11指標</b> | <b>6位</b> |
| 第6区分 女性が活躍しやすいまち      | 9指標         | 13位       |
| 第7区分 高齢者にやさしいまち       | 11指標        | 2位        |
| 第8区分 多様な暮らしができるまち     | 8指標         | 7位        |
| 第9区分 健康に暮らせるまち        | 10指標        | 2位        |
| 第10区分 安全で安心できるまち      | 9指標         | 6位        |
| 計                     | 100指標       | 1位        |

その他にも、全国上位となっています。

- 「7. 高齢者にやさしいまち」 2位
- 「8. 多様な暮らしができるまち」 7位
- 「9. 健康に暮らせるまち」 2位
- 「10. 安全で安心できるまち」 6位

個別指標では全国1位、2位といった指標は少ないのですが、総合的には暮らしやすいことがわかります。

アンケートの結果をみると長崎は決して住みにくいまちではないはずですが、では、なぜ人口の流出が止まらないのでしょうか？

アンケートと学生の動向等をふまえて、「実際に長崎市民はどう考えているのか？」と考え、子育て世代でもある長崎YEG会員及び育児世代が集まるNPO法人インフィニティーの利用所にアンケートを取ってみました。

30～40代の男性中心の意見になりますが、「子育て」や「学びやすさ」に関しては概ね半々の意見が集まりました。

この中で「そうは思わない」と答えた理由の多くは施設や行政の不満が多く書かれていました。

NPO法人インフィニティー・長崎商工会議所青年部アンケート結果  
アンケートのサンプルは114名、性別年齢の分布は以下の通りです。

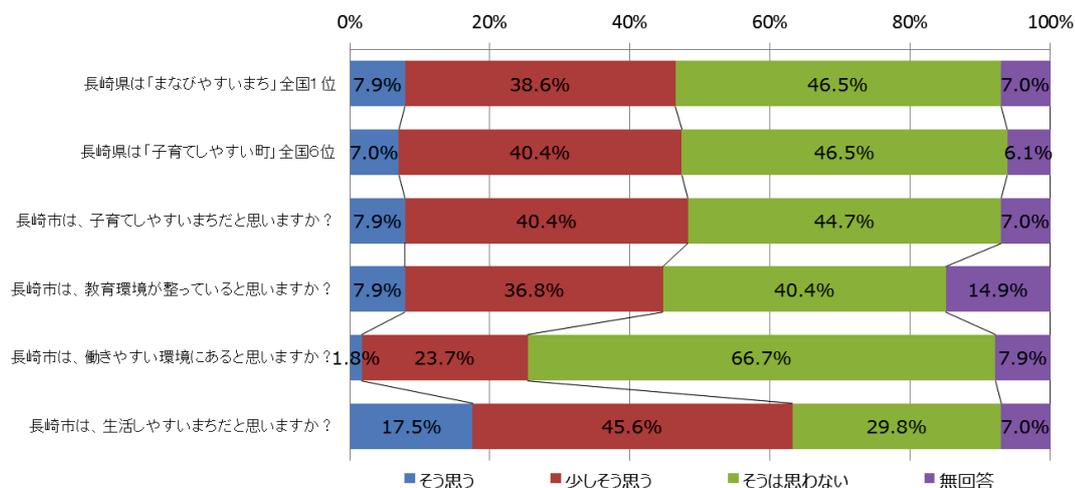
性別)

| 性別  | 男性    | 女性    | 無回答  |
|-----|-------|-------|------|
| 回答数 | 89    | 18    | 7    |
| 割合  | 78.1% | 15.8% | 6.1% |

年齢)

| 年齢  | 25～29 | 30～34 | 35～39 | 40～44 | 45～49 | 50以上 | 無回答   |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|
| 回答数 | 4     | 11    | 16    | 43    | 18    | 5    | 17    |
| 割合  | 3.5%  | 9.6%  | 14.0% | 37.7% | 15.8% | 4.4% | 14.9% |

## ① アンケート内容、回答分布図



アンケートの中で長崎市対象の質問に対しての回答の一部をご紹介します。

質問) 長崎市は子育てしやすいまちだと思いますか？

| 回 答 | そう思う | 少しそう思う | そうは思わない | 無 回 答 |
|-----|------|--------|---------|-------|
| 回答数 | 9    | 46     | 51      | 8     |
| 割 合 | 7.9% | 40.4%  | 44.7%   | 7.0%  |

### そう思う、少しそう思う

- ・公園や商業施設、子供向けのイベントは少ないと思います
- ・もう少し保育施設を増やしてほしい
- ・祭りがあり、情操教育には良い
- ・近所の方々
- ・環境が穏やか
- ・現状不自由がないから
- ・街がコンパクトで職住が近いので
- ・子育て支援が出来ており、長崎市の取り組みがよい
- ・子どもたちがイベントに出る機会が多く良い。
- ・比較的保育園、幼稚園が多いのでは
- ・公園にもう少し充実した遊具を設置してほしい
- ・子育てしやすいと思って入るが、子供が少なくなっているのを感じる。
- ・首都圏と比べるとまだ、地域のコミュニティーがあると思う
- ・犯罪が少ない
- ・ほどよい都会 ほどよい田舎
- ・山、海、自然が多い
- ・歴史、自然が豊かなため
- ・市長の方針で障がい児への教育を厚くしつつある為

### そうは思わない

- ・保育施設が足りない？ 1年待った
- ・友人を見ていると、ほとんど祖母頼みで、行政として子育てしやすいとは思いません
- ・引っ越してきたが、子育てセンターなどの設備が少なく、内容も薄い気がする
- ・遊び場や遊園地などが無い
- ・具体的にそう思える理由が他県と比べてあると思えない。
- ・公園や家族で遊ぶ場所の不足。病院が充実していない。
- ・子供がいるお母さんの仕事環境の不備
- ・保育園が少ないように感じる。
- ・また病気したとき小学生以上になると医療費もかなりかかる
- ・子育てに対する経済的補助が少ないと思われます。
- ・経済的な面から見て、低所得の市の為、大都市のような教育費がかけられないと思う
- ・中心部含め、坂道が多い
- ・外食施設に子供連れで行きやすいところがない。ベビーカーに優しくない。

質問) 長崎市は教育環境が整っていると思いますか？

| 回 答 | そう思う | 少しそう思う | そうは思わない | 無 回 答 |
|-----|------|--------|---------|-------|
| 回答数 | 9    | 42     | 46      | 17    |
| 割 合 | 7.9% | 36.8%  | 40.4%   | 14.9% |

### そう思う、少しそう思う

- ・義務教育はそれなりなのでは！
- ・生涯学習ができるような文化的施設がほしい
- ・平和学習などが他に比べ身近にある
- ・大学は多いが、もっと子供のころから外国の方と触れ合える場を増やしてほしい
- ・文化的な建物や歴史を感じるモノがたくさんある
- ・町全体の雰囲気
- ・世界遺産もあるように長崎独自の歴史の有り様があるため
- ・歴史の勉強とか、海外に目を向ける地理的な要素も多い
- ・長崎大学が移転しないようにしてほしい！
- ・学校の数（私立高校が多い）公立高校、大学の数は多い
- ・生涯学習という点では教えてくださる方があまりいないと思う。
- ・大学の環境がもう少し整えばいいと思う
- ・タブレット教材で授業が始まっているが、環境、台数等の不足があり、中途半端
- ・教育施設はしっかりあると思う
- ・長崎にある歴史・文化を活かしきっていない感じがする為

### そうは思わない

- ・教育費が高い
- ・学べるところが少ない
- ・大学を増加させるべき 学生が県外に流出する
- ・大学の学部が少ない、大学院大学が無い。
- ・スポーツ施設が少ない。
- ・長崎市内のある学校は教室に空調があると聞いているが、私の周りの学校でそのような所は聞いたことがない、不公平だと感じる
- ・絶対的な人材が少ない
- ・特化した教育（学校）が少ない気がする
- ・校区が広すぎるのではないか
- ・中学校が山の上にある
- ・IT導入が他都市より遅い。
- ・偏差値が他都市より低い
- ・教師の不祥事が多い
- ・小・中・高をもっと少人数化して手厚い教育にしてほしいから
- ・大都市では、様々な学力レベルの学校が存在しているため自分の学力にあった学校を選べる、それが、学力を伸ばす条件となっていると思う

質問) 長崎市は、生活しやすいまちだと思いますか？

| 回 答 | そう思う  | 少しそう思う | そうは思わない | 無 回 答 |
|-----|-------|--------|---------|-------|
| 回答数 | 20    | 52     | 34      | 8     |
| 割 合 | 17.5% | 45.6%  | 29.8%   | 7.0%  |

### そう思う、少しそう思う

- ・海、山など自然が多い、近い
- ・地震がほとんどない
- ・市民の人情が素晴らしい、人が優しい
- ・食事がおいしい（新鮮な魚が安い・山の幸もおいしい）
- ・とにかく安全、治安がいい
- ・コンパクトシティ
- ・静かで住みやすくなったと思います
- ・階段や坂道のバリアフリー化があれば高齢者も住みよいと感じる
- ・広くも狭くもなく、公私ともに利用する施設の規模や場所もちょうど良いと思います
- ・自宅があり、一定の収入がある人にとっては非常に住みやすいまち。
- ・インフラの整備をより進めて長崎市から諫早・大村等のエリアにアクセスしやすくすると平地の少ない長崎市の商業的や教育のデメリットが無くなると思います。
- ・自治会がしっかりしている、陳情も受け入れられる
- ・犯罪が少ない。適度に田舎、知名度高い、人情がある、青年団体が活発
- ・住み慣れたから

### そうは思わない

- ・家賃が高い
- ・土地が高い
- ・不動産が高い
- ・道がせまい
- ・物価が高い
- ・空港が遠い
- ・坂が多い
- ・高齢者の生活はとても不自由で、インフラだけの問題だけではない
- ・坂道が多く、交通等の環境が悪い
- ・家賃が高いと県外の方からよく話を聞く
- ・公共交通機関が早くなる。
- ・車の横付けが出来ない所が多い。
- ・斜面地の環境整備がされていない
- ・生活コストが高く、収入が少ない
- ・生活にかかる費用が所得の割に負担がある
- ・黄砂 PM2.5の影響が異常に多い
- ・交通網の整備がもう少し必要

そこで我々は共通点が多くある金沢市を視察しました。

金沢市は北陸新幹線開通で観光客誘致PRだけでなく、子育て支援にも力を入れ、成果を上げており、モデル都市のひとつであると考え選択しました。

### 金沢市との各種比較①

| 長崎市  | 都市名                   | 金沢市   |
|--|-----------------------|---|
| 431,919人<br>198,963人<br>232,956人<br>193,336世帯                    | 人口<br>男性<br>女性<br>世帯数 | 465,559人<br>226,309人<br>239,293人<br>200,726世帯   |
| 温暖で寒暖の差が少ない<br>季節風の影響で大雪になる事がある<br>思われがちだが雨が多いわけではない             | 気候                    | 春・夏は好天が多い<br>冬は雨が多く積雪あり<br>湿度が高い  |
| 山に囲まれ、すり鉢状である<br>「坂の街」で有名  | 環境                    | 山・海があり自然に満ちている<br>水が豊かで「用水のまち」として有名   |
| 江戸時代、国内唯一の国際貿易港である<br>異国情緒に満ちた港町である<br>被爆都市である<br>異国文化と融合した和洋折衷  | 文化                    | 加賀藩・前田家の城下町<br>伝統工芸・伝統芸能の町である<br>戦災・災害からまのがれ、幕政時代の町並みが残っている                           |
| 産業革命遺産の世界遺産登録<br>教会群と関連遺産<br>グラバー園<br>平和公園<br>眼鏡橋<br>大浦天主堂<br>出島 | 観光都市                  | ユネスコ創造都市<br>金沢21世紀美術館<br>兼六園（ミシュラン三ツ星）<br>金沢駅（おもてなしドーム）<br>歴史建造物都市<br>ひがし茶屋街<br>武家屋敷跡 |

\*H27.8現在  
\*産業構造など違いはあるが、人口・面積など非常に近い都市である  
(観光都市として有名で比較対象としてとらえてみた。)

人口は長崎市43万人に対し金沢市46万人

環境も自然に恵まれており、歴史・文化が多く残っている都市。

また、多くの建造物や施設があり観光都市として有名である都市である。

但し金沢市の特殊出生率は全国平均の1.41を上回っており1.43である。

長崎市は1.36と大きく下回っています。

そこで金沢市子ども政策課でお話をお聞きしました。

金沢市では早くから「子育て夢プラン」を策定し、地域と密着した子育てを進めていました。

また「U~mo」と「B~no」といった出産から子育てまで支援する冊子などを作り「サービス」の供給体制を整備しておりました。

しかし、長崎市も「子育て支援事業計画」を進めており、子育て支援拠点は金沢市が243ヶ所に対し長崎市は232ヶ所と数としては大きな差がありません。

それなのに、なぜ長崎の市民は「少ない」と不満がでるのでしょうか？

我々は議論を重ねた結果「長崎の良さ」「長崎の実力」「長崎の施設」など多くの事が「市民に伝わっていないのではないか？」と考えました。

そこで、どんな取り組みを行えば効果的で市民に伝わり興味を持ってもらえるかを考えてみました。

### 金沢市との各種比較②

#### 子育て支援拠点

| 長崎市   | 施設内容              | 金沢市   |
|-------|-------------------|-------|
| 1ヶ所   | 子ども広場             | 6ヶ所   |
|       | 相談センター他           | 3か所   |
| 128か所 | 保育所               | 111か所 |
| 50か所  | 幼稚園               | 37か所  |
| 6か所   | 児童館               | 30か所  |
| 47か所  | 支援センター・サロン・お遊び教室他 | 56か所  |
| 232か所 | 計                 | 243か所 |

## 5. 歯止めには何が必要か

アンケートの結果などから定住人口減少の原因を挙げてみると、「賃金が低い」「仕事が無い」「出生率が低い」「教育レベル」「娯楽が無い」などの不満があり、「産みたくてもうめない」という声を多く聞きます。インフラ整備や観光産業を中心にした明るい兆しもありますが、そもそも長崎にないものを求めて、逆に長崎にあるものを見逃してはいないでしょうか。むしろ自分達で「長崎を住みたい街にしよう」「自分の手で世界に発信する事業をはじめよう」という考え方に変えることができれば、人口減少に歯止めが掛けられるのではないのでしょうか。そのためにも、私たちは「教育改革」がカギを握っているのではと考えました。

ヒントになったのは、子育てに関わるNPO法人インフィニティーのアンケートでした。

インフィニティーの意見の中に、「ゆとりを持った高校が少ない。進学中心だ。」  
「長崎だけ『ESD』に取り組んでいない。」という意見がありました。

進学中心という声から、受験中心の勉強になっていることで、都会の企業への人材輩出型の教育になっているという懸念が推測できます。また、初めて聞く「ESD」というキーワードについて、詳しく調べてみました。ESDはEducation for Sustainable Developmentの略で、直訳すると「持続可能な開発のための教育」となり、文部科学省のウェブサイトには、このように記されています。

### 〔ESDとは〕

今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。つまり、ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

出典：文部科学省ウェブサイトより

ESDとは、地域にとっては「地域の未来を自分のこととして考える子供たちを育てる教育」と考えることができます。地域の抱える問題を自分の問題として考えて実践しようという子供たちが育てば、長崎市の抱える定住人口の減少に一定の歯止めができるのではないのでしょうか？

日本のこれまでのESDの取り組みでは、2005年から10年間、「国連持続可能な開発のための教育の10年」として政府が2014年までの目標と計画の策定を行い、学校教育や社会教育（地域における多様な主体が参画・協働する取組）を行ってきました。2014年秋には名古屋市と岡山市で「ESDに関するユネスコ世界会議」が開催され、10年間の活動をまとめた「ジャパンレポート」が発表されました。

### 〔ジャパンレポート〕

「第1部10年間の日本の成果と課題」「第2部日本の主な推進体制と各主体による取組」「第3部日本の優良事例30例」から構成。「国連ESDの10年」の提唱国として、また、「ESDに関するユネスコ世界会議」の開催国として、国内の取組を喚起するとともに、2015年以降の諸外国における取組の参考としてもらうために、「我が国における『国連持続可能な開発のための教育の10年』実施計画」に基づく取組・成果及び国内の優良事例を、円卓会議の開催により関係者の意見を聴取しつつ取りまとめたものです。

出典：文部科学省 報道資料より

この世界会議のあと、2015年からは学校教育現場へのさらなるESDの浸透や、地域におけるESDのさらなる推進が新たな課題となりました。現在、ESD推進の拠点となる「ユネスコスクール」は、愛知・岡山という世界会議の開催県を中心に、国内に939校あります。2015年には、長崎県で初めて県立対馬高校が加盟を承認されました。

長崎市でも「環境教育」に関係する中でESDのことが市議会に取上げられたり、小学校で特別授業が行われたりしていますが、ユネスコスクールの加盟校は1校もありません。

#### [ユネスコスクール加盟校の比較] ※2015年6月現在

|       |                 |
|-------|-----------------|
| 全 世 界 | 約 1 万校 (181カ国)  |
| 全 国   | 939校            |
| 石 川 県 | 63校 (うち金沢市 44校) |
| 長 崎 県 | 1 校 (うち長崎市 0校)  |

出典：ユネスコスクール公式ウェブサイトより

#### [ユネスコスクールとは]

ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校です。文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールをESDの推進拠点として位置付けています。

日本国内の加盟校数は、「国連持続可能な開発のための教育の10年（DESD）」が始まった平成17年から飛躍的に増加し、1カ国当の加盟校数としては、世界最大。

出典：文部科学省ホームページより

#### ① 定住人口減少の歯止めにつながるESD成功事例

先ほどのジャパンレポートから、長崎市の「持続可能な地域づくり」に繋がる成功事例を調べてみました。それが、島根県隠岐の島にある「県立隠岐島前高校」の魅力化プロジェクトです。

このとりくみは、廃校寸前だった地元高校を起点に、地域が一体となって「グローバル人材」の育成を目指したものです。その結果、平成20年に89名だった生徒が、26年には156名にまで増えました。離島や中山間の学校としては異例の学級増を果たし、現在は各学年2クラスになっています。

#### [グローバル人材]

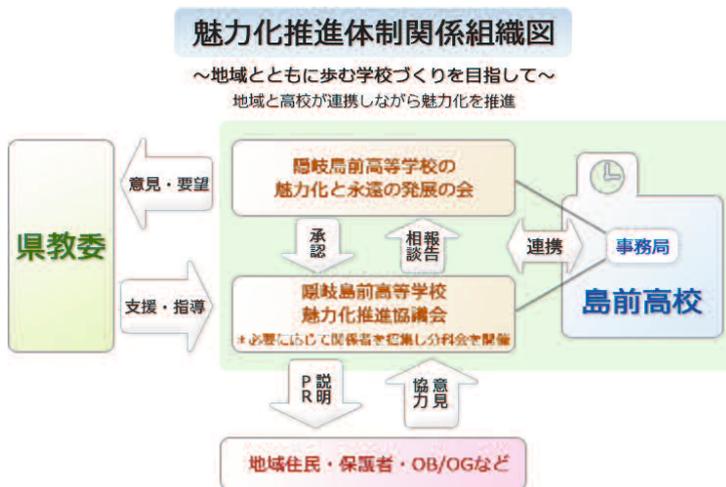
国際社会（グローバル）で通用すると同時に、生まれ育った地域社会ローカルなどに貢献できる人材。これからの時代に望まれる人材像の一つ。

出典：ベネッセ教育情報サイトより

なぜ、高校改革だったのでしょうか？

島前高校のある海士町は、半世紀前に約7,000人だった人口が2,400人を切り、高齢化率は約40%という超少子高齢化地域でした。平成20年度の島前高校入学者数は28人で、本土の高校との統廃合の危機に直面していました。廃校＝本土への進学は、高校生の親にとって大きな経済的負担となり、島外への流出が進行します。プロジェクト発足の背景には、このピンチをチャンスに変えようという発想の転換がありました。

自治体、地域、学校の連携によって島全体を巻き込んだ組織で「高校の魅力化」を行うことで、島内で本土と同じ水準の教育が受けられる、本土の同じ競争がある環境を作りました。その結果、人が育ち、自分達で島の未来を創っていかうという高校生が増えたのです。



出典：島前高校魅力化プロジェクト ウェブサイトより

県都である長崎市と離島の島前高校では置かれた環境の違いは大きいですが、高校卒業と同時に進学・就職者の半数が県外に出る現状の改善として、この事例から得られる教訓は多いのではないのでしょうか？

特に、島外からの生徒「島留学」の受け入れや、その結果として島内出身者が「しまの魅力を再発見し作成した観光プラン「ヒトツナギ」で観光甲子園日本一の成果を生んだことは、長崎の教育改革のヒントになると思います。

### 〔観光プラン・ヒトツナギ〕

ヒトツナギとは、日本全国の中高生を対象とした旅です。参加者は、全国の中高生10名、島前三島内の中高生10名で、5日間のうちに島前三島を回ります。この旅では基本的に観光地へは行きません。参加者には島前に伝わる伝統文化を知り、人の温かさに触れてもらいます。旅の企画・運営は全て私たち島前高生が行います。



出典：島前高校ウェブサイト・ヒトツナギ部より

## 6. 提言1 「長崎版ESDを確立して、長崎が好きな子供を育てよう」

これまで延べた事例を参考に、私たちは「自分たちの手で長崎の未来を創る」という考え方を育むために、長崎版のESDを確立・活用することで、長崎が好きな子供を育てることが定住人口減少の歯止めになると提言します。

市民が長崎の魅力を再発見し、それを子供たちにしっかり伝えて、自分達の手で長崎をもっと魅力ある街にしようという活動が、長崎で学び就職したいと考えに繋がるのではないのでしょうか。仮に進学や就職などで長崎を離れても、いつか長崎に戻って働きたいという子供が育つのではないのでしょうか。

では、長崎では何を改革すればいいのでしょうか。県庁所在地である長崎には、高校・大学も多数あり、県外からの大学進学者も多数あります。むしろ、進路選択の時点から「県外の大学で学びたい」と考える高校生が多いのも事実です。よって一番必要なことは高校生までの子供たちに、長崎の魅力をより深く知ってもらうことです。国語・数学など受験に必要な勉強だけでなく、地元の魅力を学ぶことがESDになるのではないのでしょうか？

歴史や自然環境に恵まれた長崎市には多くの観光資源があり、独特の文化が育んだ産業には他県にはない特色や物語があります。何か参考にできるものがないか、長崎新聞の記事を調べてみました。



三菱重工長崎造船所では「100年以上の歴史を持つ造船」を学ぶことができます。桃カステラ作りは、砂糖文化＝シュガーロードの歴史や中国との交流を知る貴重な体験です。また、大学生が旅行会社と一緒に高校生向けの商品開発の記事からは、全国有数の修学旅行地を題材に旅行商品を開発する大学生のやる気が伝わってきます。このような活動を通して、長崎は魅力があり世界に通用する文化を持っているという魅力を感じてもらうことができるのではないのでしょうか。現在は、それぞれの企業や学校が取り組んでいますが、これをESDの視点で繋ぎ合わせることで、より一層「長崎が好きな子供を育てる」ことにつながるのではないのでしょうか。

このほかにも長崎版ESDに活用できるコンテンツは多々あります。今年で10周年を迎える「長崎さるく」のノウハウをESDに活用できないでしょうか。長崎さるくの理念は「まち活かし」「ひと活かし」。ないものねだりではなく、ありもの探しをしようという考え方はESDに繋がるものがあります。2006年のさるく博以降、まちあるき観光として定着し、長崎の魅力を学ぶのに最適な教材でもあります。これまで、学校単位で「通さるく」などに参加することはありましたが、島前高校魅力化プロジェクトのような地域が組織的にプログラムに参加することはありませんでした。

実際に「長崎版ESD」を実施するイメージとしては、自治会ごとにESDにつながるプログラムを作って、地域の小学校、学童などの団体に提供します。今年2月現在で、長崎市には985の自治会と41の中学校区がありますが、自治会～中学校区の単位で「さるく」的なプログラムを作り、地域の大人が地域の子供たちに地元の魅力を知ってもらうことは、より親密な人間関係を築くことにもつながります。

### 〔長崎版ESD実施イメージ〕

例えば、歴史の街長崎の風情を色濃く残す寺町界隈の企画として、昨年10月に中島川沿いに観光案内所などをオープンした(株)メモリード発行の「長崎まちなかぶらぶらガイド」を使って、寺町地区の歴史を学ぶ企画を実施します。自治会や地域の有志が運営し、講師としてお寺の住職などにご協力いただければ、企業—自治体—各種団体の連携で、地域の子供たちや県外から来た学生や社会人にも喜ばれるようなソフトの提供が可能ではないでしょうか？

2016政策提言「ずっと住みたかながさき」

自治会の取り組み案／寺町地区

企画案：「寺町まちぶら講座(仮)」

<実施イメージ>

- 月1～2回ペースで開催。
- 寺町・中島川近辺の歴史を学ぶ。
- 江戸の宗教政策から長崎のまちづくりが見える？

<ターゲット>

- ◆地域の小～高校生
- ◆県外から来た大学・専門学校生
- ◆近隣の住民(おとな、子ども、親子etc)

さるくだったり、伝統芸能だったり、山歩きだったり、楽しんで地域の魅力、地域の企業の魅力、地域の人々の魅力を学べれば面白いのではないのでしょうか。高齢化を迎えて、様々な能力を持った高齢者に助けられれば、その可能性はより一層広がると思います。また、昨年12月に施行された「長崎市よかまちづくり条例」は、市民のまちづくりへの参加を目的としており、これらの活動の後押しになるのではないのでしょうか。自治会や地域の連携では、整備が進む「地域包括ケア」も中学校区が単位で、相乗効果も期待できます。

### 〔資料：長崎市よかまちづくり基本条例と長崎市の地域包括ケアシステム〕

長崎市よかまちづくり基本条例 特集号

『長崎のまちはみんなで作る』取組み

さまざまなかたがお互いに協力して取り組むという事例は、次のようなものがあります。

- 環境美化活動「アプトアラム」
- この施設は、自治会の事業として環境美化活動を行うために設置されています。
- 地域子ども教室
- 長崎工業高等学校 建築科と行政の協業により、毎年、新築が実施されています。授業の一環として取り組んだことが社会貢献につながっています。
- 地域のかたの協力により、放課後や週末に小学校などを利用して、子どもたちの安全・安心な場所を提供しています。



## 7. 提言2 「企業のESD参加と企業と学生を繋ぐイベントの実施」

定住人口減少に歯止めをかけるための最大の課題は、高卒・大卒者の県外流出をいかに食い止めるかです。そのためには、提言①によって「長崎を好きな子供を育てる」とともに、県内で働きたい学生に、地元の元気な企業を知ってもらう必要があります、地元就職のための「産・学・官」の連携が必要です。

提言①で企業の参加を挙げましたが、さらに踏み込んで大学生、高校生という「就職」を考える時期の学生と協働作業を行うことで、より密度の濃い人間関係を構築しながら、その企業や業種の魅力に触れてもらうことができるのではないのでしょうか。

実際に行われている例として、「スマコマながさきバイクコンテスト」があります。地元の中小企業に就職する地元学生が少ないことに危機感を持った企業経営者の呼びかけに、自治体、学校、関係企業などが賛同し一昨年スタートしました。初年度が大学2校、高校1校。昨年度は大学2校、高校4校が参加しました。

ものづくりを通して大学・高校・地元中小企業の交流が生まれました。コンテストではお互いの車輛の特徴などに語り合い、みんなで手づくりでイベントを運営し、単なる技術研修やインターンシップでは得られない充実感がありました。このようなイベントを様々な業種で実施できれば、企業を知ってもらうチャンスが増えるのではないのでしょうか？

[資料：スマコマながさき電動バイクコンテスト]



## 8. 提言3 「毎月第4水曜日を長崎よかまちづくりの日に」

長崎版ESDとは、みんなで「長崎をよかまちにする行動」を通して学ぶことではないかと思います。そこで、提言①や提言②の活動を促進するために、毎月1回定期的にこの活動を行う日を定めて、市を挙げて普及に取り組みましょう。

子供たちに地元の魅力を知ってもらい、子供たちと一緒に廃品回収や山歩き体験をすることは、普段の勉強を離れて世代の違う大人や企業との交流が生まれ、郷土愛やコミュニケーション能力の向上に寄与すると思います。

企業側も地域活動に参加する従業員を応援し、勤務の調整や、自らソフトの提供側になります。水曜日はノー残業デーにしているところも多いので、学校も歩調を合わせ「ノー宿題デー」にして、この日は家族や地域の活動に取り組む日にしましょう。産・官・学・地域が連携すれば、長崎版ESDの普及がより一層進むものと考えます。

## 9. まとめ

私たちは、ESDの考え方を取り入れた教育改革＝長崎版ESDの確立によって、子供たちに長崎の魅力を感じてもらい地域や地元企業に愛着を持ってもらうことで、定住人口減少に一定の歯止めができればと期待します。具体的には、「高卒・大卒者の県外流出を防ぐ」「地域・自治体の活性化を促す」「県外に流出しても長崎の良さをPRしてくれる広報担当であり、一番のUターン予備軍」になってくれることを目指します。

こじつけかもしれませんが、地域の取り組みを充実することで、地域の高齢者がやりがいを見つけて元気になったり、新しい観光資源の発掘に繋がったり、多くの相乗効果が得られるのではないのでしょうか。特定の関係に依存するあまり心の病に陥る方も増えていますが、「職場や学校」「家庭」「地域」という全く違う人間関係が生まれて、心のバランスも取りやすくなるのではないかと思います。

これらはまだ夢物語かも知れませんが、市民一人ひとりの意識改革に一步踏み出すことで、新しい長崎のまちづくりが生まれるかも知れません。

